



ITOKC 新聞

R8 新年度ワクチン情報 R8.3.28 【公開版】

①シルガード9へ統一・男子の任意無料接種

お伝えした通り、R8.4月～ガーダシルは無くなります。
今月になり、北区では、ガーダシル→シルガード9への途中以降（交接種）について、“やむを得ない場合医師の判断で”可能と示されました。ガーダシルの在庫も少なく、今からガーダシルを発注する必要性は少ないと思います。ガーダシル1回目や、2回目接種済みで、どうしてもガーダシルでの継続接種希望のかたは、一度スタッフか伊藤に相談してください。

男児のHPVワクチン（中学生～高校1年）はシルガード⑨になります。女子は定期接種（券が配布される、23区乗り入れ可）のですが、男子はあくまで任意接種ですが、各自治体の助成で無料となります（男児は乗り入れ不可。当日の時点で当院で打てるのは、その日に北区在住者のみ）。接種券は自動配布されないようです。自分で区の保健予防課に取り寄せて頂き、持参した用紙で接種です。

【女性のHPVワクチン接種の意義について】

女性のHPVワクチン接種は何といたっても子宮頸がん予防です。性交体験開始前に接種完了が推奨です。HPV感染の高リスク型の多くを、中和抗体によりブロックするため、感染を強力に抑えます。海外データでは、子宮頸がんの発生率を優位に低下したというデータがあります。（接種した10万人のなかで4名（0.004%）のみ発

がんで、それはガーダシル時代のデータで、ガーダシルがカバーしていない高リスク型による感染が原因と推測されるようです。) シルガードを適切に (早期に) 接種すれば、さらなに発がんは減り、大きな抑制～撲滅に近い状況に期待されます。今後さらに、日本での大規模な長期含めた予後の検証は必要とは思われます。

初めての性交体験前に接種が推奨されます。9歳～45歳が接種可能で、10歳～が一般的な推奨。小学6年生～16歳迄が公費対象。

通常は3回接種しますが、特例で、14歳以下で接種開始した場合 6か月後に2回目 (最短で5カ月) の場合 2回接種で完了可能です。この場合、発癌抑制効果は3回と同等です。

【男性がHPVワクチン接種する意義】

①自身の癌の予防(肛門、陰茎、中咽頭)HPVの高リスク型で生じやすい②尖圭コンジローマ予防(コンジローマとは、陰茎や女性の陰部にできる不整なイボです。北区は男女ともに多いと言う話があります)。HPVの低リスク型のウイルスで生じ、良性ですが多発したり、繰り返したりして時々厄介です。③今後出会うパートナーの感染予防、つまり発癌から守る (それはつまり家族を守るに等しい) と言うことに意義があります。できれば初性交体験以前に接種完了を目指したいところです。また、多数のウイルスの型があるため、成人・中年以降で、すでに性交経験がある程度あり HPV 感染済でも、すべての型に感染しているわけでもなく、ほかの型への感染予防という意味で、時期は遅れてでも接種の意義があります。

よほど多数の相手と性交したとか、もしくはもう性交しない、という覚悟や年齢に到るまでは、少なからず男性も接種する意義があり、効果が期待され、大人の自費接種もあり得るわけです。

参考までに、今どきの平均の発性交体験は男子で20歳 (最小19

歳～最高 65 歳)、女子で 19 歳 (最小 17 歳～最高 20 歳) との民間誌の調査があり、驚くことに、以前より 1 歳程度上昇しているようなのです。理由として考えられるのは以下だそうです。

1. 恋愛・性に対する価値観の変化 (男女共通)

「急ぐ必要はない」「自分のペースで」という価値観
SNS や趣味の多様化で、恋愛が人生の中心でなくなっている。

2. 出会い～交際～結婚までの期間が長期化 (女性で特に顕著)

女性の平均出会い年齢・交際期間が長くなっている。

平均交際期間：2.54 年 → 4.26 年 (1987→2015)

平均出会い年齢：22.7 歳 → 24.8 歳

結婚年齢の上昇も影響 (初婚平均：29.1 歳)。

3. 経済状況・将来不安による恋愛の後回し (男女共通)

若者の収入不安定化が恋愛・交際への消極性につながる。

4. “選択的未経験”の増加 (男女共通)

「あえて経験しない」という選択が社会的に受け入れられる

5. 女性特有の要因：安全性・信頼性の重視

女性は「信頼できる相手かどうか」をより重視する傾向が強い。

SNS での出会い増加により、慎重になるケースも増えている。

6. 性教育・情報の普及で“リスク回避”が強まった

若い女性の性に関する知識が増え、リスク管理意識が高まっている。因みに男性は、“不同意性交”“承諾が得られているか心配”などの意見があるそうで、時代を反映している様です。これも少子化の一因でしょうか。

とはいえ、遅かれ早かれ、何らかの形で性交（感染の機会）が、なくなったわけではありません。

むしろ、ワクチンを適切な時期（中学生、高校1年まで）に接種完了していたかどうか、も、今後出会う、付き合う、結婚するなどの条件の提示において、評価される、必要な条件として求められるという時代の到来も考えられます。海外ではそのような国もあるようで、国際結婚のときに、HPV ワクチン接種に後れを取っている日本人が、苦戦する場面も出てきているようです。公費と安全性、9 価ワクチンの浸透に伴い、男女ともに、接種率が上がってくれば、これからの若い人たちは、結婚を前提に交際する上で、“接種証明”が、求められるという時代も来るかもしれなと言えます。親が子供たちに、思春期において施してあげられる、数少ないお世話であり、明るい未来への準備なのかもしれません。

②肺炎球菌ワクチンの最新事情

肺炎球菌は、高齢者の肺炎で最多の起因菌で、死亡原因に大きく関与すると言われてるため、教科書的にも昔から重要です。高齢者の肺炎球菌ワクチンの定期接種(65歳)は、プレベナー20に統一されます。(今まではニューモバックス)。勿論、古いニューモバックスは発注しないでください。【定期接種ですが、毎年のように自己負担が今年 R8 年度の北区は 5500 円(去年は 4000 円でしたが Up しました)、例えば、A 区は安かったり無料だったりします。持参する予診票見て判断。23 区乗り入れ可能】自費では現在当院では 12000 円。】

プレベナー20は、乳幼児でも使用しており、これは皮下注射ですが、大人(高齢者)の接種は筋肉注射です。15分待機してください。定期接種とは別に、肺炎球菌の型で、プレベナーだけではカバーできていない残りの型(8種くらい)は、新しいキャップボックスで、カバーされます。またニューモバックスは非結合型(莢膜多糖体ワクチン)で5年で消えてしまうのですが、プレベナーやキャップボックスは莢膜結合型であり、T細胞に働き免疫に記憶され、小児や成人でも効いて、従って長期に効果が保たれます。

従って、今だと、満65歳の時(誕生日前日~65歳末日迄)に定期接種のプレベナー20を接種後、1年以上してから66歳以降に1回キャップボックスを打つ(任意で助成なし。現在税込14500円)というのがこれからのデフォルト(お勧めのフルコース)ということになります。

あと、すでにニューモバックスを(定期)接種済みのかたは、やはり1年以上してから、ブースト効果としてキャップボックス(任意で助成なし。現在税込14500円)を1回打つと、肺炎(球菌)に関しては当面の数年~10年以上は、おおよそ安泰と思っております。

③RS ウイルスワクチンが母児ワクチンで任意無料接種開始

(アブリスボ (Pfizer)。一見高いですが、新生児・乳幼児に予防効果が期待出来て、プライスレスです。自費では 32000 円。公費になり、全額公費で無料となるので、4 月～増えると思います。ただし、現時点では返品不可の高額の代物なので、当面は預り金 (32000 円) が必要です。ゆくゆく、接種数が増えてきたら、期限が 48 か月と長めのようなので、いつか預り金も免除 (予備置く) なども考慮しますが、今はまだ、増えるまでは前金を頂いております。接種日に、有効な券を持ってきて無事に接種したら、領収書確認して引き換えに返金します。このため前金はカード不可です。

妊娠 28～37 歳に接種する。接種日に北区民が必須。児の予防効果 50%、重症化予防 80%です。妊娠ごとに 1 回 0.5ml 筋肉注射です。15-30 分間、経過観察します。

高齢者専用の RSV ワクチン = 以前からあるアレクシベ (26500 円)

(GSK(株)) もあります。返品不可のため、これも前金必要です。60 歳～接種可能です。※アブリスボも 60 歳以上の高齢者も自費で接種可能ですが、高めの 32000 円のアブリスボを、高齢者が打つケースはほぼないでしょう。

④ 带状疱疹ワクチン

ほぼ、昨年通り。最近では、認知症予防、老化防止、心不全予防にも効果が予測されており、早めの接種がお勧め。

水痘ワクチン（自己負担 4000 円）は効果が弱く 3~4 割程度。有効期間も短い。当院では、水痘ワクチンの带状疱疹ワクチンへの代用についての可否は、公示も推奨はしていないが、接種の許可は得てある。

一方、いわゆる带状疱疹ワクチン=シングリックス（不活化ワクチン）が推奨で本命（自己負担 11000 円 X2 回）。筋肉注射、30 分待機。時間にゆとりを持ってきてほしい。比較的発熱する（30%くらい）これは 50 歳~接種可能。昨年 40 歳台でも接種可能と示された（自費）。任意接種+区の助成（半額 11000 円）は 50 歳~64 歳まで限定で可能。自分で区に申請して券をもらう。【※2026 年度の方針は最終決定が待たれますが、昨年通りかどうか、4 月以降に公表されると思われる】今年度も行うとしても、一度切れて改めて令和 8 年度として行うと思われ、その場合の予診票は、仮に 1 回目を令和 7 年度の予診票で接種済みで、手元に令和 7 年度用の用紙の 2 回目があったとしても、今回そのまま使えない可能性が高い（昨年度、は同様の症例で不可でした）。

令和 8 年度に接種するには、2 回目でも令和 8 年度用の带状疱疹ワクチン接種の予診票を取り寄せて貰って持参してもらう必要がある。

定期接種は、若い人は、65 歳（65 歳になる年度の 4 月~3 月末日）で 1 回だけチャンス。すでに 66 歳以上の人は、70 歳、75 歳、80 歳、などの 5 の倍数の歳に今後 1 回だけ定期接種のチャンスがあります（おそらく券が送られてくる）。それを逃したら、あとは自費で打つしかありません。大切な機会に接種を。

※ただし、当院独自の割引サービスあり。2回接種をセットで支払った場合、2回=44000円を42000円に割引きます（2回目が20000という考え方）。（カード可）。従って、万が一、返金希望（2回目をキャンセル）の場合は、返金額は当然、20000円のみ、となります（1回目が22000円のため）。

⑤高容量インフルワクチン(エフルダ®)サノフィ(株)今秋登場

0.7ml筋注です。接種後要観察（15分程度）が、任意接種(政府の助成あり予定)予定されています。夏には自己負担〇円などの、情報が出てくると思われます。高齢者の感染予防効果が3割程度→6割、重症化予防効果もUpするなど、高齢者改善があり、重篤な副作用は増えないとデータあり。60歳以上が接種可能、65歳以上は助成（一部）ありとの報道があり、続報が待たれます。



ITOKC